

No.	事業名	団体名	所在地	事業概要	助成額	内訳	選定理由
1	総働で地域につなぐ移住者支援拠点づくり	NPO法人愛のまちエコ倶楽部	滋賀県東近江市	人口減少による地域の脆弱化の中、改めて地方を選ぶ移住者は、次の時代の社会ビジョンを持つ貴重な人材である。しかし行政支援には移住者と地域をつなぐパイプがないため、ミスマッチングや孤立が生まれている。このため本事業では、空き家等を活用した交流拠点を創り、移住者と地域、移住者同士をつなぐことで、移住者の「暮らす・働く」価値観を具現化し、地域の担い手として活躍できる支援体制を創る。 ・移住前に段階的に地域と関係性をつくれる交流型滞在拠点を創り、集落や住民、営農などと丁寧なつながりで、ミスマッチングや孤立を予防する。 ・滞在中の地域交流や農業ボランティア・研修などのプログラムを提供し、移住予備軍の関係人口拡大を図る。 ・拠点を求心力にして多くのステークホルダーが移住者を支えるしくみを構築し、移住前から後まで多岐にわたる課題に対応する体制を創る。 ・地域資源を活用した生産創出の支援設備を整え、移住後の大きな課題「働く」をサポートする。 ・講座・ワークショップなどを通して、移住者同士が「こんな暮らし・働き方を創りたい」を語る場を醸成し、共感や繋がりを生み出し、地域でそれを具現化する機会を創る。	11,450,000	<直接事業費> 10,618,400 <管理的経費> 286,400 <評価関連経費> 545,200	これまで取組実績があり、交流拠点を持つことで、地域の総働を強化し、孤立する移住者を移住前後で支援する取組は、人口減少に悩む地域にも波及効果が高く採択とする。
2	空き家を活用して命を守りつなぐ場づくり	一般社団法人TeamNorishiro	滋賀県東近江市	年齢、経済条件、障がい福祉制度などに関係なく、引きこもりや障がいを持つ孤立状態にある人を対象に、暮らしをベースに彼らがアクセスしやすい工夫を凝らし、空き家を活用して緊急時に駆け込み、人によって意味合いが変わる命を守る場づくりを行う。通常時は「8050問題」の対応として両親の高齢化などによる家族の分離に備えて半身生活を経験できたり、新しい生産等の体験や相談の場として屋内でのコミュニケーションの体験ができたりと、地域で暮らすための力を育む場とする。また彼らを支える親や障がい福祉の若手が集い学ぶつながりの場とする。さらに、地域の障がい福祉以外の企業や学校など多職種で働く人に、我々の活動を通して障がい福祉のことを知ってもらい、引きこもりや障がいを持つ方への理解を促進して、地域の応援団になるきっかけづくりを行う。 これらにより、働く場づくりから、空き家を活用して命を守り、人をつなぐ場づくりへと取組を拡張させ、彼らの命を守り、地域で働き暮らしていく力をオーダーメイドで育む。それと同時に、彼らの応援団を増やし、地域の「のりしろ」（許容・適応力）を大きくする。	12,000,000	<直接事業費> 9,714,310 <管理的経費> 1,714,290 <評価関連経費> 571,400	これまで取組実績があり、働く拠点をプラスして、暮らしの拠点を持つことで、地域の総働を強化し、福祉制度を利用できない方の緊急避難や「8050問題」の解決など多様な孤立者支援は高く評価できることから採択とする。
3	湖東地区発達通学バス	湖東まちづくり会社	滋賀県東近江市	寝び始めた社会の仕組みを構うように地域活動をする中で、孤立するお母さんの様々な声が寄せられるようになった。朝夕の子どもの送迎に疲弊する住民と行政の間に入り、住民の声を行政に伝え改善を促したが、予算・担い手不足と、生活習慣が違う地域同士が市町合併したことからくる地域間のジレンマに悩む行政には解決できなかった。そのため、行政に託すだけではなく地域住民が動くことで何とかしたい、諦めたくないという気持ちを形にしていけることが重要と位置づけ動き出した。今回の事業は、社会的・家内にも孤立している住民に寄り合い、人と人をつなぎ、地域に根ざした暮らしができる仕組みづくりとして、住民が共助の形で運営する通学時間帯に特化したバス運行を基幹事業として取り組む。バス運行により、子どもの学びと家族の就労の機会を広がり、社会的つながりの増大を目指す。また、大連・安福・高速に大郡市への移動に便利な内線に接続することで、まちづくりの担い手である若年層の定住促進のきっかけとする。将来的に、昼間休車しているバスを利用した地域内の循環バスや子育て層が利用しやすい学童保育等を担える足がかりにしている。	7,000,000	<直接事業費> 5,787,600 <管理的経費> 880,000 <評価関連経費> 332,400	まちづくり協議会の活動を基盤に、高校生等の保護者の声から地域の総働で通学支援を実現しようとする取組は評価でき、同様に悩む過疎地域への波及効果も大きいことから採択とする。